

第4次国有林野事業流域管理推進アクションプログラム (宗谷流域)

1 流域の特色(国有林 162千ha、民有林 125千ha)

本流域は、日本最北に位置し、東部はオホーツク海、西部は日本海、南部は上川北部・留萌及び網走西部の各流域に接し、さらに日本海には利尻島及び礼文島がある。総面積は405千haで全道総面積の約5%を占め、東西148km、南北100kmに及び1市7町1村で構成されている。

流域内は、南部が北見山地の低山地帯、海岸沿いの平野部が広大な泥炭質の原野を形成し、その間を数本の小流域河川が流れている。また、利尻島は円形で中央に利尻山(海拔1,721m)があり、礼文島は、南北にやや細長い丘陵地帯となっている。

森林は流域面積の約7割で、海岸部の森林は厳しい自然条件の影響を受けるほか、過去の度重なる森林火災等により失われたことから笹生地が多く残されている。

国有林の7割がトドマツ、エゾマツ、ミズナラ、センノキ、ダケカンバ等が混交する天然林で占められ、3割が昭和30年代以降に造成されたトドマツ、カラマツ、アカエゾマツ等の人工林となっている。

流域内の主要な産業は、漁業と酪農であり、生活環境、農地・沿岸漁場の保全のための適切な整備が求められるほか、多くの市町村の水源が国有林野内であることから水源かん養機能の発揮が重要となっている。

また、稚内市街地の裏山や利尻・礼文両島は、生活圈近くまで急傾斜地が迫っていることから、生活環境の保全、山地災害防止等の機能発揮が強く求められている。

なお、本流域内の森林は、高緯度地方の特色ある自然環境から「利尻礼文サロベツ国立公園」、「北オホーツク道立自然公園」などに指定され、森林レクリエーションの場として活用されるとともに、希少な野生植物の自生地、ラムサール条約の登録湿地等が含まれており、野生動植物の保護等に対する要望が高くなっている。

2 流域内で優先的に取り組むべき課題

(1) 海岸防風林及び水源林等の整備

日本最北における厳しい気象を緩和し、良好な生活環境と良質な水を確保するため、海岸防風林及び水源林等の整備、機能の低下した未立木地等の森林への再生に取り組む必要がある。また、地球温暖化防止、安全で安心できる暮らしの確保、生物多様性の保全、国民の森林とのふれあいを推進するため、地方自治体、森林・林業関係者、森林ボランティア関係者等との連携強化を図りつつ、森林整備を推進する必要がある。

(2) 間伐等の推進

森林約287千haのうち約78千ha(約3割)を占める人工林においては、その

約 7 割が間伐対象林分となっていることから、健全な森林の育成や地球温暖化防止に貢献するよう適切な間伐の推進に取り組む必要がある。

また、間伐等を推進するためには、民有林と連携した技術検討会等の実施、低コスト路網の整備、間伐材の国有林野事業への積極的利用、低コスト高効率作業システムの普及啓発等を進める必要がある。

(3) 森林・林業に関する普及啓発

森林はそれ自体が炭素の貯蔵庫であり、適切な森林の整備及び保全とこれらを通じて供給される木材の有効利用を図ることが二酸化炭素の吸収固定を促進し、地球温暖化防止に貢献することについて、地域住民等が十分理解するよう普及啓発に取り組む必要がある。

3 国有林野事業に対する流域内のニーズ・要望

宗谷流域における国有林に対するニーズや要望を把握するため、公共機関（支庁、環境省、市町村、教育委員会、小中学校等）及び林業関係者、ボランティア団体等にアンケート調査により、平成 22 年 1 月から 2 月にかけて意見聴取したところ、ニーズ・要望等が以下のとおり 81 件（複数回答）寄せられた。

なお、要望等は内容により、計画的な木材供給の推進、森林施業の効率化・共通化等の取組、林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成、安全・安心への取組、生物多様性保全に配慮した取組の推進、上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等、その他に区分した。

計画的な木材供給の推進（14 件）

- ・流域材（間伐材）の利用促進及び安定供給
- ・森林資源及び計画的な木材需給のための情報交換
- ・システム販売等による安定供給の取組

森林施業等の効率化・共通化等の取組（13 件）

- ・民有林・国有林の連携による森林整備
- ・森林整備協定等に基づく多様で健全な森林整備
- ・民国連携した効率的な路網整備の推進

林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成（14 件）

- ・技術開発等のための検討会等の開催、情報発信
- ・事業の安定的・計画的発注等を通じた林業事業体の育成

安全・安心への取組（10 件）

- ・民国連携した治山事業の実施
- ・治山事業の P R、技術等の普及啓発

生物多様性保全に配慮した取組の推進（ 11件）

- ・生物多様性保全のための検討会等の実施
- ・希少動植物に配慮した森林整備の必要

上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等（ 18件）

- ・民間団体等が行う森林整備等への支援
- ・教育関係機関等と連携した森林環境教育等の実施

その他（ 1件）

- ・国有林の若手職員の育成（様々な現場業務の経験が必要）

4 国有林野事業が率先して行う取組

計画的な木材供給の推進

ア) 目標

- ・間伐の推進及び間伐材利用の促進
- ・未利用材利用等木質バイオマス資源の需要拡大に資する取組

イ) 連携・協力機関

関係行政機関、森林・林業活性化協議会、関係業界等

ウ) 取組方向

- ・森林資源状況及び木材需給等に係る積極的な情報交換
- ・流域材及び間伐材の利用促進や製材工場への安定供給に向けた検討
- ・システム販売等事業の安定的、計画的な供給
- ・木質バイオマス資源の需要拡大に応じた林地残材等の活用に向けた取組

森林施業の効率化・共通化等の取組

ア) 目標

- ・効率的な森林整備等の推進
- ・森林整備協定締結等による森林共同施業団地設定の推進

イ) 連携・協力機関

関係行政機関、森林・林業活性化協議会、関係業界等

ウ) 取組方向

- ・森林整備協定等に基づく民有林との連携
- ・未立木地等機能低下林分の再生
- ・効率的な路網整備の検討及び情報の共有
- ・森林整備協定締結等による森林共同施業団地設定の取組
- ・低コスト高効率作業システムの確立に向けた民国連携の現地検討会等の開催
- ・低コストで崩れにくい作業道などを主体とした路網整備の取組

林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成

ア) 目標

- ・ 民国連携による林業技術の普及等と林業事業体の育成

イ) 連携・協力機関

関係行政機関、森林・林業活性化協議会、関係業界等

ウ) 取組方向

- ・ 効率的な間伐、路網整備に向けた民国連携による現地検討会の開催
- ・ 造林事業等の計画的な発注による林業事業体の育成
- ・ 請負事業の実施を通じた施業技術の向上
- ・ 施業モデル林設定の取組

安全・安心への取組

ア) 目標

民国が連携した治山事業の推進

イ) 連携・協力機関

関係行政機関

ウ) 取組方向

- ・ 民国が連携した治山事業（工事、保安林整備等）の効果的な実施
- ・ 地域住民に対する P R
- ・ 治山技術等の普及・啓発

生物多様性保全に配慮した取組の推進

ア) 目標

- ・ 生物多様性保全に向けた多様な取組
- ・ エゾシカ対策の推進

イ) 連携・協力機関

関係行政機関、N P O 法人、ボランティア団体等

ウ) 取組方向

- ・ 関係機関等と連携した生物多様性保全対策の検討、P R
- ・ 希少野生動植物に配慮した森林の整備
- ・ エゾシカ対策の実施
- ・ ボランティア団体等が行う保全活動への支援

上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等

ア) 目標

関係機関等と連携した植樹活動の推進、森林環境教育等の実施

イ) 連携・協力機関

関係行政機関、漁協関係者、教育関係者、N P O 法人、ボランティア団体等

ウ) 取組方向

- ・ 漁業協同組合及びボランティア団体等が行う植樹活動の支援、フィールドの提

供

- ・学校等が行う森林環境教育等への協力、支援

その他

ア) 目標

地域と国有林の結びつける取組の強化

イ) 連携・協力機関

関係行政機関、教育関係者、一般住民等

ウ) 取組方向

- ・地方自治体、地域住民のニーズの把握、情報交換
- ・国有林の取組のPR
- ・民有林や事業体と連携した人材育成

流域名・流域番号	宗谷流域(011)	担当部署	宗谷森林管理署
計画期間	平成22年4月1日～平成25年3月31日		